私にとっての ラグビーワールドカップ2015

会員　小塩 康祐（66期）

廣瀬選手（中央）とともに廣瀬選手大学同期の林周一郎氏（左）と筆者（右）

南アフリカ戦チケット

ラグビーワールドカップが2015年9月18日～10月31日，ラグビー発祥の地イングランドで開催された。

ニュージーランドの史上初の連覇で幕を閉じるという結果自体は，下馬評とおりではあったが，そこに至る過程ではいくつものドラマが繰り広げられていた。

開催国イングランドの予選敗退，ジョージアの2勝，ナミビアのボーナスポイント獲得等，いずれの試合にもドラマがあった。しかし，日本対南アフリカ戦がワールドカップのベストゲームであったことは間違いないと思う。

南アフリカ戦の勝利は，メディアで大きく取り上げられ，ラグビーブームを日本に巻き起こした。「奇跡」，「桐谷美玲が吉田沙保里選手を倒すようなもの」，「史上最大の番狂わせ」といった表現で報道されたが，それほどの偉業であった。

私自身，現地で観戦をしていたが，正直なところ，勝てるとは思っていなかった。試合前に，テレビ局や新聞社のラグビー専門記者と話しても，誰もが，勝てると思っていなかった。

しかし，試合前とハーフタイムに廣瀬俊朗選手（日本代表前キャプテン，南アフリカ戦はレギュラーメンバーから外れていた）と話した際に，廣瀬選手は，「必ず勝てます」「前半は想定とおりの流れ，勝てると思います」と力強く語っていた。

ハーフタイム時点でも，日本の勝利を信じていたのは，おそらく，日本代表メンバーだけであったと思う。後半ラストワンプレーの時点で，日本代表は29対32で負けていた。

ラストプレーの選択権は，日本代表が得た。ペナルティーキックを選択して3点を得れば，同点で試合終了という展開。同点でも十分すぎる結果であった。

エディー・ジョーンズヘッドコーチもインカムで，選手に対してペナルティーキックを指示していた。しかし，選手は，トライの5点を得るべく，スクラムを選択した。選手がスクラムを選択するか否か迷っていた際に，スクラムリーダーの木津武士選手は，「スクラム！」と大きな声でスクラムを選択することを求めていた。それほど，自信があったのだと思う。この瞬間，会場の雰囲気は一変した。会場の全員が日本コールをし，日本代表の背中を押した。その声援に応えるかのようにスクラムを組み，ボールを展開し，日本代表選手全員でボールを繋ぎ，見事トライを決めた。結果，34対32で日本が勝利した。あの瞬間は忘れられない。

個人的な話をさせてもらうと，畠山健介選手や五郎丸歩選手が，早稲田大学ラグビー部のチームメートであり，一緒に練習をしてきたメンバーであったので，非常に嬉しかった。また，廣瀬選手はじめ他の代表選手とも様々な活動を通じて，懇意にしていただいているので，彼らの努力が報われたことが素直に嬉しかった。そして，4年前のニュージーランド大会は，私自身，司法試験浪人が決まった直後であったので（たしか合格発表の日に開幕した），ワールドカップを一試合も観戦しなかった。4年後，現地で，かつ，同世代の日本代表の選手と喜びを共有できたことで4年前の自分に対して，少しは誇れる4年間を過ごしてきたのではないかと思っている。

このように，私にとって，ワールドカップ2015は特別な大会であった。

4年後，ワールドカップ2019は日本で開催される。4年後の自分に誇れるように，また，4年間頑張っていきたいと思う。